

本質を  
**見**  
抜く

第67回 The 67th Annual Meeting of the Western Japan Division of JDA  
日本皮膚科学会西部支部学術大会

プログラム・抄録集

【会期】 2015年 10月17日<sup>土</sup> ▶ 18日<sup>日</sup>

【会場】 長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホール(長崎市)

【会長】 宇谷 厚志(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚病態学分野)

- 66 多発性丘疹状毛包上皮腫の1例  
 神崎 美玲 (かんだき みれい)<sup>1</sup>、丸山 浩<sup>2</sup>、柳澤 宏実<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>水戸済生会総合病院、<sup>2</sup>筑波大、<sup>3</sup>ひたちなか市

**ランチョンセミナー4** 12:00 ~ 13:00 【皮膚真菌症の最近の話題】  
 座長：瀧川 雅浩 (さくらこまち皮膚科クリニック) / 田中 俊宏 (滋賀医大)

- LS4-1 皮膚真菌症から爪白癬まで  
 西本 勝太郎 (長崎済済会病院)

- LS4-2 爪白癬治療における初めての外用薬の位置づけ  
 楠原 正洋 (楠原皮膚科医院)

共催：科研製薬株式会社

**ワークショップ「研究最前線」** 13:10 ~ 13:20  
 座長：一宮 誠 (山口大) / 古村 南夫 (久留米大)

- WS8 ロドデノール誘発性脱色素斑の病理組織学的検討  
 堤 玲子 (つつみ れいこ)、山田 七子、吉田 雄一、山元 修  
鳥取大

**一般演題【代謝異常・色素異常】** 13:20 ~ 14:33  
 座長：一宮 誠 (山口大) / 古村 南夫 (久留米大)

13:20 ~ 13:48

- 67 4歳児に発症した弾性線維性仮性黄色腫 (PXE)  
 牧 伸樹 (まきの のぶき)<sup>1,3</sup>、藤田 有理香<sup>2</sup>、藤田 悦子<sup>2</sup>、小宮根 真弓<sup>2</sup>、村田 哲<sup>2</sup>、大槻 マミ太郎<sup>2</sup>、出光 俊郎<sup>3</sup>、  
 大久保 佑美<sup>4</sup>、宇谷 厚志<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>独立行政法人地域医療機能推進機構さいたま北部医療センター、<sup>2</sup>自治医大、<sup>3</sup>自治医大さいたま医療センター、<sup>4</sup>長崎大

- 68 Pseudoxanthoma elasticum-like papillary dermal elastolysisの1例  
 永田 寛 (ながた ひろし)<sup>1</sup>、大塚 明奈<sup>1</sup>、夏秋 洋平<sup>1</sup>、花田 雄介<sup>2</sup>、名嘉真 武国<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>久留米大、<sup>2</sup>福岡市

- 69 線状黄色腫を契機に診断した原発性高コレステロール血症の小児例  
 坂本 佳子 (さかもと けいこ)<sup>1</sup>、工藤 恭子<sup>1</sup>、大久保 一宏<sup>2</sup>、都 研一<sup>3</sup>、古江 増隆<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>福岡市立こども病院、<sup>2</sup>九州大小児科、<sup>3</sup>福岡市立こども病院 内分泌・代謝科、<sup>4</sup>九州大

- 70 関節リウマチに合併した皮膚石灰沈着症による下腿潰瘍の1例  
 緋田 哲也 (ひだ てつや)<sup>1</sup>、南 満芳<sup>1</sup>、久保 宜明<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>松山赤十字病院、<sup>2</sup>徳島大

13:58 ~ 14:33

- 71 家族性アミロイドーシスの1家系  
 上尾 大輔 (うえお だいすけ)<sup>1</sup>、阿南 隆<sup>2</sup>、波多野 豊<sup>3</sup>、藤原 作平<sup>3</sup>、大久保 佑美<sup>4</sup>、与崎 マリ子<sup>4</sup>、  
 峯 嘉子<sup>4</sup>、宇谷 厚志<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>佐伯市、<sup>2</sup>札幌皮膚病理解断科、<sup>3</sup>大分大、<sup>4</sup>長崎大

- 72 Immunoglobulin lambda like polypeptide (IGLL) 5陽性を示した萎縮性結節性皮膚アミロイドーシスの1例  
 猿田 祐輔 (さるた ゆうすけ)<sup>1</sup>、安藤 はるか<sup>1</sup>、五味 由梨佳<sup>1</sup>、北島 真理子<sup>1</sup>、宇野 裕和<sup>1</sup>、北見 由季<sup>1</sup>、  
 渡辺 秀晃<sup>1</sup>、末木 博彦<sup>1</sup>、山下 太郎<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>昭和、<sup>2</sup>熊本大神経内科

- 73 皮膚硬化の評価を粘弾性測定装置 (Vesmeter) により行った浮腫性硬化症の1例  
 増田 香奈 (ますだ かな)<sup>1</sup>、宮脇 さおり<sup>1</sup>、藤山 幹子<sup>1</sup>、南 満芳<sup>2</sup>、佐山 浩二<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>愛媛大、<sup>2</sup>松山赤十字病院

- 74 ADAR1新規変異を伴った思春期発症遺伝性対側性色素異常症の1例  
 真島 瑛美 (ましま えみ)<sup>1</sup>、中村 元信<sup>1</sup>、岡村 賢<sup>2</sup>、鈴木 民夫<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>産業医大、<sup>2</sup>山形大

- 75 Cronkhite-Canada症候群の1例  
 高橋 道央 (たかはし みちひさ)<sup>1</sup>、盛山 吉弘<sup>1</sup>、江頭 徹哉<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>土浦協同病院、<sup>2</sup>土浦協同病院消化器内科

**ワークショップ「研究最前線」** 14:43 ~ 14:53

座長：吉田 雄一 (鳥取大) / 白石 研 (愛媛大)

- WS9 表皮角化細胞における Smurf の機能解析 - TGF-βシグナルを制御する新たなユビキチンリガーゼの役割 -  
 白石 研 (しらいし けん)、佐山 浩二  
愛媛大

**一般演題【腫瘍2: Sarcoma, SCC】** 14:53 ~ 16:06

座長：吉田 雄一 (鳥取大) / 白石 研 (愛媛大)

14:53 ~ 15:21

- 76 左大陰唇に生じたAngiomyofibrosarcomaの一例  
 木村 七絵 (きむら ななえ)<sup>1,2</sup>、執行 あかり<sup>1</sup>、幸田 太<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>北九州市立医療センター、<sup>2</sup>飯塚病院

- 77 頭蓋内浸潤をきたした血管肉腫の1例  
 高橋 千晶 (たかはし ちあき)<sup>1,2</sup>、上原 治朗<sup>2</sup>、大石 泰史<sup>2</sup>、西 薫<sup>2</sup>、竹田 恵子<sup>2</sup>、林 圭<sup>2</sup>、沼田 香央里<sup>2</sup>、本間 大<sup>2</sup>、  
 山本 明美<sup>2</sup>、飯塚 一<sup>2</sup>、青木 直子<sup>3</sup>  
<sup>1</sup>市立稚内病院、<sup>2</sup>旭川医大、<sup>3</sup>旭川医大病理学講座

- 78 皮下腫瘍のみを呈したAIDS関連型カポジ肉腫の1例  
 田中 佑佳 (たなか ゆうか)、東郷 さやか、田口 理英子、藤井 麻美、東 祥子、小澤 健太郎、田所 丈嗣、  
 爲政 大幾  
国立病院機構大阪医療センター

- 79 診断に苦慮した類上皮肉腫の一例  
 久留 敏晴 (ひさどめ としはる)、西馬場 理恵、吉福 明日香、藤井 一恭、東 裕子、金蔵 拓郎  
鹿児島大

15:31 ~ 16:06

- 80 腰臀部に生じたepithelioid angiosarcomaの1例  
 岡部 倫子 (おかべ のりこ)、松田 知与、原田 佳代、高松 紘子、占部 和敬  
九州医療センター

- 81 腎移植後に有棘細胞癌が多発した2症例  
 本多 舞 (ほんだ まい)<sup>1,2</sup>、富村 沙織<sup>2</sup>、鋤塚 大<sup>2</sup>、中沢 由華<sup>3</sup>、萩 朋男<sup>4</sup>、宇谷 厚志<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>長崎みなとメディカルセンター-市民病院、<sup>2</sup>長崎大、<sup>3</sup>長崎大付風原爆後障害医療研究施設分子医学研究分野、<sup>4</sup>名古屋大環境医学研究所

- 82 表皮嚢腫から二次性発生した右臀部有棘細胞癌の1例  
 渡邊 総一郎 (わたなべ そういちろう)<sup>1,2</sup>、岩田 洋平<sup>1</sup>、竹内 誠<sup>2</sup>、沼田 茂樹<sup>1</sup>、有馬 豪<sup>1</sup>、神谷 里明<sup>3</sup>、溝口 良順<sup>4</sup>、  
 黒田 誠<sup>5</sup>、矢上 晶子<sup>1</sup>、松永 佳世子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>藤田保健衛生大、<sup>2</sup>津島市民病院、<sup>3</sup>津島市民病院 外科、<sup>4</sup>公立西知多総合病院 病理診断科、<sup>5</sup>藤田保健衛生大 病理診断科

10月17日(土) E会場

10月17日(土) E会場

## シンポジウム3

10月17日 (土) 14:10-16:00

B会場

見逃してはならない感染症

座長：西本 勝太郎／上里 博

SY3-1

壊死性筋膜炎の診断と治療  
～広範囲デブリードマンは不可欠か?～岩田 洋平、松永 佳世子  
藤田保健衛生大

壊死性筋膜炎は皮膚軟部組織における致死性重症感染症であり、早期の診断とデブリードマンおよび十分な抗菌薬の投与が必要である。壊死性筋膜炎は、皮膚症状、試験穿刺や切開時の所見、画像検査、血液検査などを組み合わせて診断される。2004年にWongらにより提唱された壊死性筋膜炎の診断アルゴリズムでは、血液検査項目 (CRP、白血球数、ヘモグロビン、血清Na、血清クレアチニン、血糖) をスコア化 (Laboratory Risk Indicator For Necrotizing Fasciitis score) することでリスク分類が可能であり、診断の参考として有用である。しかし、最終的な診断の決め手は紫斑、壊死といった皮膚症状や試験穿刺・切開時の所見であり、皮膚科医の果たす役割が非常に大切である。

壊死性筋膜炎では広範囲デブリードマンが一般的であり、その範囲は指やゾンデが入っていく範囲とされている。しかし、下肢 (特に下腿) では正常な組織でも、筋膜上は抵抗なく容易に剥離できるため、適切なデブリードマンの範囲決定にしばしば難渋する。また、肉眼的に壊死していない皮膚も含めて切除する広範囲デブリードマンは、患者に多大な侵襲がかかり全身状態を悪化させるリスクがあることに加え、複数回の植皮術を要することにもなり長期間の入院が不可避となる。したがって、著者らは画一的に広範囲デブリードマンを行うのではなく、患者の全身状態と壊死性筋膜炎の重症度を勘案してデブリードマンの範囲を決定している。

壊死性筋膜炎は、救急科や外科、整形外科ではなく、皮膚所見を評価できる皮膚科医が主体となって、患者の年齢や全身状態、重症度を勘案しデブリードマンを含めて治療方針を決定することが求められる。本シンポジウムでは、自験例を提示しつつ診断に重要な皮膚所見と具体的な対処法、デブリードマンの範囲について考察していきたい。

## 略歴

2000年～2006年 社会保険中京病院 研修医および皮膚科専攻医  
2003年4月 虎の門病院皮膚科  
2006年～2008年 長崎大学医学部皮膚科 医員 (名古屋大学大学院特別研究学生)  
2008年 社会保険中京病院皮膚科 医員  
2009年 米国Duke大学免疫学教室 research associate  
2010年 社会保険中京病院皮膚科 医長  
2011年 藤田保健衛生大学医学部皮膚科 講師  
現在に至る

## シンポジウム3

10月17日 (土) 14:10-16:00

B会場

見逃してはならない感染症

座長：西本 勝太郎／上里 博

SY3-2

## それ、本当に真菌?

富村 沙織  
長崎大

「みずむし」、「たむし」と俗語があるように、表在性皮膚真菌感染症はヒトにとって身近な疾患である。日常診療において、湿疹・皮膚炎とならび良く診る皮膚科疾患の一つでもある。ベテランの先生の中には、視診だけでも真菌感染症かそうでないかがわかる、という方もいるかもしれない。視診で診断の道筋をつけていくのは皮膚科専門医の本領発揮といえるし、そのような皮膚科医の姿に憧れて皮膚科の門をたたき若手医師もいるだろう。しかし、その皮疹、本当に視診だけで真菌感染症と診断、もしくは否定できるだろうか。皮膚真菌症の原因菌種や罹患部位によって、出現してくる臨床症状は多彩であり、安易に診断する事も否定する事もできないと考える。まずは、真菌感染症ではないか、と疑い、真菌検査を行う労力を怠ってはならない。また、深在性真菌感染症に関しては、細菌感染症や腫瘍との鑑別が必要となる事がある。疑わしい症例について、積極的に皮膚生検や組織培養による確認を行うべきである。

今回、日常診療で見逃しがちな真菌感染症、易感染性宿主に生じやすい真菌感染症を中心に、「真菌検査しておいてよかった!」と思えた症例を紹介し、真菌感染症の診断のポイント、検査のこつなどについて述べていきたい。

## 略歴

2003年 3月 大分医科大学医学部医学科 卒業  
2003年 5月 長崎大学医学部歯学部付属病院皮膚科 研修医  
2004年 6月 日本赤十字社長崎原爆病院皮膚科 研修医  
2005年 4月 長崎大学医学部歯学部付属病院皮膚科 医員  
2006年12月 佐世保市立総合病院皮膚科  
2007年12月 長崎大学病院皮膚科アレルギー科 医員  
2008年12月 長崎市民病院皮膚科  
2009年 3月 長崎大学大学院医療科学博士課程修了 (医学博士)  
2011年 6月 長崎大学病院皮膚科アレルギー科 助教  
2014年11月 同 講師